

## 平成27年度 第3回河南町総合戦略推進会議 議事録

日 時：平成27年11月12日（木）午後3時～4時20分

場 所：河南町役場4階 大会議室

出席者：委員16名／欠席委員6名

事務局4名

傍聴者1名

### 1. 開会

### 2. 第2回推進会議議事録確認

(柿沼会長)

- ・第2回の推進会議の議事録の確認について、内容の訂正等はありませんか。

(全員)

- ・訂正等なし。

(柿沼会長)

- ・特にならなければ、この内容で、町のホームページに公開します。

### 3. 案件

(1) 河南町人口ビジョン（素案）について

(柿沼会長)

- ・担当者より、素案について説明してもらいます。

(事務局)

- ・人口ビジョンの全体構成に続いて、各章の内容について説明。

<説明の主なポイント>

- ・本ビジョンは、第1章 はじめに、第2章 河南町の人口の現状、第3章 社会保障・人口問題研究所による人口推計、第4章 将来展望 と4つの章で構成されています。
- ・P1は背景として、国の地方創生への取り組みを示し、河南町の人口ビジョンは2060年までの将来の方向と人口の展望を示すとうたっています。
- ・P2は河南町の国勢調査による昭和40（1965）年から平成22（2010）年までの45年間の人口の推移を示しています。総人口のピークは平成17年の17,545人で、平成22年は17,040人と減少していますが、老年人口は増加しています。
- ・P3は年少人口・生産年齢人口・老年人口が総人口に占める割合の推移を示しています。
- ・P4は出生数と死亡数による自然動態です。平成2年から平成22年の間はすべての年で死亡数を出生数が上回っています。
- ・P5は平成11年から平成26年までの合計特殊出生率の推移です。人口が安定するには2.07が必要とされていますが、河南町の合計特殊出生率は平成24年までは概ね1から1.2

の間で推移していましたが、平成25年からは下降傾向にあります。

- ・P6は人口の社会動態です。平成7年前後は転入者数が転出者数を大きく上回る状態にありましたが、平成20年以降は転出者数が転入者数を上回り、社会減に転じています。
- ・P7は平成24・25年の地域別転入・転出者数合計を図にしたものです。2年間の転入者数は968人、転出者数は1,042人、計74人の転出超過となっています。大阪府内、特に南河内地域内での移動が多くなっています。
- ・P8は年齢階層別に転入・転出者を表しています。20から24歳、25から29歳の階層で転出者数が多くなっているのがわかります。
- ・P9は国立社会保障・人口問題研究所による人口推計（以下、社人研）です。社人研の推計で総人口をみると平成17年に17,545人、平成22年に17,040人であった総人口は平成52（2040）年には12,500人程度、その20年後、平成72（2060）年には8,900人程度になると推計されています。
- ・P10は社人研推計を年齢3区分別人口割合で表したグラフです。総人口に占める老年人口の割合は平成52年には老年人口：生産年齢人口が1：1.3、平成72年には1：1になると推計されています。
- ・P11からは将来展望です。まず、人口減少・人口構造変化が地域の将来に与える影響の考察です。生活へ与える影響、地域経済へ与える影響、財政へ与える影響の3区分について示しています。
- ・P12は目指すべき将来の方向を示しています。本町の人口の将来展望は、平成72（2060）年に17,000人といたしました。
- ・合計特殊出生率については国の水準と同等としました。河南町では独自の子育て支援に取り組んできましたが、さらなる拡充を図り、国の出生率向上策との相乗効果による目標を設定しています。
- ・人口の流入流出の社会増減については、ビジョンでは、社会増を平成37（2025）年に年35人程度、その後徐々に増加に転じ、平成52（2040）年に年120人程度、平成72（2060）年には年180人程度という目標を設定しています。河南町では、これまでのまちづくりに加えて、今後も引き続き流出抑制と流入促進を図ることとしております。加えて、東京一極集中の是正や、都市近郊の立地条件を活かしたまちづくり、観光創出による交流人口からの人口定着を行う施策推進、土地の有効活用、都市インフラ整備、規制緩和などを推進し、長期的な視野に立った人口の流入誘導策により、17,000人を目指すこととしたものであります。
- ・P13の図は将来展望人口の推移を示しています。いったん、人口は減少しますが、自然増と社会増の効果で、平成42年から平成52年まで15,500人程度の人口となるものの、そこから人口増に転じ、平成72（2060）年には平成22年当時と同じ17,000人程度の人口となると想定しています。P14の図は将来展望人口の3区分別人口の推移です。
- ・最後のP15は取り組みの方向性です。「住みたいまち、住み続けたいまち」をめざして、以下の3点を掲げています。

- \*子育て・教育等の総合的な支援の充実により、若い世代が魅力を感じる河南町をつくり、出生数の増加を目指します。
- \*すべての人生活の場を整え、人口の流出を抑制します。
- \*暮らしやすさ、環境、仕事等の地域魅力を発信し、活発な地域間・世代間交流やI・J・Uターンを促します。
- ・なお、具体的な取り組みの詳細は、本日提示できませんでした総合戦略の方でお示しさせていただきます。

#### 4. 質問及び議論

(柿沼会長)

- ・ありがとうございました。内容について質問があれば、お願いしたい。
- ・資料の訂正箇所をもう一度言ってほしい。

(事務局)

- ・訂正箇所は、3ページの説明文の箇所では12.6%が正しい。
- ・8ページのグラフ中の合計：45人を74人に訂正。

(委員)

- ・平成72年に17,000人ということで組み立てられている。国は計画を立てているが、現状としては、データの最後の出生率は0.84と低い。それが17,000人まで一気に上がるという見通しの根拠や、現在の取組みに加え、さらにどういう取組みをするのか、という説明が無かった。その河南町独自の見解があれば、お願いしたい。
- ・国、府、町の考え方に違いがあるのではないか。

(事務局)

- ・国がビジョンを策定したのは昨年12月で、合計特殊出生率を上げるための施策を行う。合計特殊出生率については、河南町のみならず日本全体で取り組んでいくべきだと思う。
- ・第3子以降の保育料の無料化、第2子は半額。これは今年27年4月からの施策なので、まだ浸透していない。子どもの医療費の拡充などに関する国の施策や、出産・子育てに関する町の施策の相乗効果によって上がっていくという見通しでやっている。

(委員)

- ・甘すぎるのではないか。安倍内閣が出生率を1.8にするという目標については、予算委員会でも野党から甘いのではないかと追求されていた。
- ・河南町が安全、安心に暮らせるというPRをしていくことが必要。ここにはPRのことが書かれていない。

(事務局)

- ・戦略の方では PR をしていくつもりである。

(委員)

- ・それが浸透していなければ若い人の転入者も増えないだろうと思う。若い人の転入者を増やして、出生率を上げていかなくてはならない。

(事務局)

- ・今まで PR は少なかった。今年から始めた第2子、3子の半額、無料化はまだ浸透していないので、今後それを積極的に打ち出して、若い世代を呼び込み、出生率の向上につなげていきたい。

(委員)

- ・今言われたような保育料の施策は良いことだと思うが、出生率が下がっていく大きな原因というのは、この年代別の転入出状況の表に示されているように、20～35歳くらいの人たちがどんどん転出してしまっていることである。なぜ転出するのかというと、子どもたちがほとんどサラリーマン化しているからである。そのサラリーマンが勤めているのは大阪市内なので、転出先もおそらく大阪市内に近い場所だろう。これを食い止めなければならない。
- ・河南町のサラリーマンにとっては、交通の利便性が悪いことが最大の欠点。河南町を農業地域に発展させていくというのであれば、また別の話になるが。

(事務局)

- ・その世代の転出はあるが、逆に子育て世代は入ってきている。そして河南町から、かなり広い範囲で通勤・通学しているようである。多少不便であっても、河南町は住みやすいと思ってもらえれば、そういう世代の人たちに来てもらえる。これは45年先のビジョンとして示している。

(委員)

- ・大宝を見たとき、現在、生産年齢の人たちがいない。高齢者率が40%近くであるということから考えると、ほとんどの人が出て行っているのではないか。

(事務局)

- ・若い世代の人口の流出が多いことや、大阪市内、南河内のちょっと便利なところへ行くという傾向がグラフから読み取れる。道路、鉄道の問題もあるので、そういう交通インフラの問題も含め、人口の流出を食い止めていきたい。
- ・子どもも増やしていきながら、人口の目標を設定するという考え方をしている。
- ・交通の問題は一朝一夕に進めていくのは難しいので、長期的なスパンで考えていきたい。

- ・直近の数字で見ると、問題があると思われるかもしれないが、危機意識を持ちながら、どのように転換していくかというのが、この人口ビジョンで描いた数字である。その一部を戦略においても出していければと思う。

(委員)

- ・人口について議論するときには戦略面とセットになる。こういうビジョンを立てる場合、ヒト・モノ・カネの議論が必要。
- ・今日はヒトについて一部の議論が出ただけである。モノについては、ハード面、ソフト面のいろんな要素がある。そして、ここでは財政面での予測がない。カネについては、人口予測に対して将来的な財政を予測し、そのうえで河南町は他の市町村に比べて、福祉、教育に熱心で環境も良いので、これだけの財政を投入して住みやすい町にするので来てください、といったような具体的な戦略を立てないといけない。一般論で言ってもピンとこない。今話しているのは「線」だけの話になっており、「面」の話が必要。ヒト・モノ・カネを総合的に打ち出していけないと、なかなか方向性が見えてこないと思う。
- ・河南町の特色を出すためには、独自の戦略（ヒト・モノ・カネの創出）を立てていかなければならない。そのときに一番重要なのが財政面。
- ・財政面でどのように確保するか、そのために、例えば、大阪まで出なくても行けるような企業を町内に誘致する、住みやすい環境をつくるなど、定着させるための戦略を立てることが必要。他の市町村との違いを打ち出し、そこへ向けて財政面での実現性を検討していけないと実現は難しいだろう。

(委員)

- ・そのご意見はもっともだと思う。第3子の保育園の無料化は、他の自治体でも実施しているところがあるが、富田林などに人口が流入しているので、周辺自治体との差異を出さないといけない。人口の取り合いなので、他の自治体がやっていないことをやらないと難しいと思う。
- ・財政的な問題もあるが、第1子から無料にするのがよいと私自身は思っている。世界的にも保育は無料化という流れになっている。国はできないかもしれないが、小さい自治体であれば可能なのではないか。
- ・若い人がいることと、保育ニーズがあることとは違う。河南町の中では保育ニーズはどういう状況なのか。

(事務局)

- ・保育ニーズの高まりはある。数年前に保育園を1園から2園へと定員を増やしたが、増やすと、潜在的なニーズが掘り起こされた。待機はゼロであるが。
- ・具体的に説明すると、それまでは1園で定員120人だったが、もう1園増やして2園の保育園になった。定員はそれぞれ90人で180人にした。それ以上のものについては他市町村、私立にお願いしている。定員180人にすることで、現在220人くらいが保育園に行っ

ていると思うので、保育ニーズは高まっている。

- ・それ以外の子どもについても、こども園などでの預かりを検討していく。

(委員)

- ・私になぜ第1子からの無料化を言っているかというところ、転出超過は20～29歳の人が最も多いが、現在、女性はだいたい30歳が第1子を出産する年齢なので、それまでそこでとどまってもらうための施策があれば、こういうことを検討する余地があるのではないかと思ったからである。

(事務局)

- ・近隣では第2子の半額、第3子の無料化というところまでやっているところはない。
- ・子ども3人が保育園に行っていて、その1人が小学校に入った場合、第2子が半額、第3子が無料化だったのが、急に半額だった子が全額、無料だった子が半額などになると、どうしようかということが起こる。河南町の場合、第2子の半額、第3子の無料化が続く。

(委員)

- ・第1子を産むまでの道のりが一番険しいと思うので、その辺の施策があればと思う。

(委員)

- ・河南町ではスクールバスがないため、保育園まで連れて行かないといけない。お母さんが長い時間働くうえでは、送り迎えがネックになる。
- ・保育料の問題や、小学1年生から3年生くらいまでは、学童保育に入れるべきか、家に帰らせるべきかという問題がある。
- ・子どもの熱が37.7度以上になるとみしてくれない。子どもというのは、熱があっても元気なこともある。ちょっとでも見てくれると、お母さんがあわてて帰ってくる必要はない。熱が37.8度になったら、すぐに職場に電話をかけてきて、今すぐに迎えに来てくださいと言われる。そういう細かいところの対応も考え、もう少し細やかに5年、10年単位で、町がどう戦略を立てていくのかを考えてもいいのではないか。

(委員)

- ・今日の議論は「人口ビジョン」。今回は人口の目標をここに置くということだけが出てきて、それ以降の具体的な問題が出てきていない。その無い部分に皆さんの議論が入ってしまっている。将来のビジョンを描こうという議論のわりには、狭い議論に入っていると感じるので、もう少し広い視野で捉えた議論がいただければ有難い。個々の問題については、次あるいはその次に討議いただけたらと思う。
- ・今日のところは、17,000人では足りないのではないかと、あるいは多すぎるのではないかと、18,000人でもかまわないのではないかと、といった切り口での議論がよいと思う。

(柿沼会長)

- ・今日は長期の議論だが、45年後の将来を見通すのは難しい。今日、人口ビジョンに加え、戦略ビジョンも提示する予定だったが、間に合わなかった。
- ・次回の会議は来年の2月の予定だったが、年内に会議をもう1回開いて、戦略の議論をしていただくために、もう1回戦略会議が増える予定。
- ・戦略については、短期、中期、長期について、次回にご議論いただきたい。

(委員)

- ・将来展望の空き家、耕作放棄地の増加により、治安面の不安増大や地域魅力の総合的低下などは既に起こっていることだと思う。そのデータを示して欲しい。

(事務局)

- ・犯罪件数についての資料は手元にないが、防犯カメラの設置などを推進しているため、減っていると警察からは聞いている。

(柿沼会長)

- ・犯罪件数等、治安に関する資料を用意してお示しして欲しい。

(事務局)

- ・今日はビジョンの素案と戦略の素案の両方をお示しするはずだったが、戦略が間に合わず申し訳ない。
- ・12月に日をとっていただいて、ご議論いただきたい。

(柿沼会長)

- ・12月10日(木)AM、14日(月)AM又はPMを候補に、日程を決めさせていただきたい(希望者はそれぞれ5名、7名、8名)。次回は12月14日の14時で、この場所をお願いしたい。忙しい時期に申し訳ありませんが。

(委員)

- ・皆さんがお忙しいときに来られているなか、会議がちょっとぬるいと思う。もし資料が出てこないようであれば、会議開催の延期も辞さない、それくらいの覚悟を持ってやってほしい。

以上